

【授業科目】精神看護学実習

Psychiatric Nursing Practicum

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
松田 陽子、大西 信行、永住 沙樹	3年次後期	必修	2	90	実習	あり	卷末掲載	否
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／精神看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、自己洞察と対象の理解を深め、看護活動と精神保健活動が実践できる基礎的能力を養い、健康の保持・増進における精神看護の役割と機能が理解できることをめざす。そこで本実習では精神科病院に入院している対象者を一人受け持ち、対象の治療や療養生活に合わせた看護を展開する。実習中には、カンファレンス、グループディスカッション、個別スーパービジョンを受けながら、対象の看護問題や対象理解、自己に対する課題を明確にしていく。また、保健・医療・福祉における多様なケア環境と多職種との協働を学ぶため、就労継続支援事業所などにて、対象者との関わりやカンファレンスを通し、対象者を取り巻く地域精神医療と社会復帰活動の役割と機能について理解する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／毎日提出された記録用紙にコメントを記入しフィードバックする。カンファレンス時に適宜必要な内容はグループ全体にフィードバックする。必要に応じグループスーパービジョン、個別スーパービジョンを実施する。 *実務経験を持つ教員が実習を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患をもつ対象者を理解することができる。 2. 精神の健康問題が生活に及ぼす影響を理解し、対象者の状態に応じた援助を考えることができる。 3. 治療的コミュニケーション技術を活用して、看護援助を行うことができる。 4. 自己と対象の理解を深めるために、自己の内面的変化に気づき、自己洞察を行うことができる。 5. 継続看護の視点で、対象者を取りまく地域の精神保健医療と社会復帰活動の役割と機能について考えることができる。 							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>※詳細については、実習要項を参照してください。</p>							
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・実習期間は、令和6年9月9日～令和7年2月28日のうち10日間 ・実習時間は、原則として、9:00～17:00 <p>※詳細については、実習要項および実習オリエンテーション時配布資料を参照してください。</p>							大西、松田、永住
評価方法 評価基準	<p>実習内容60%、記録40%</p> <p>※詳細については、実習要項を参照してください。</p>							
学生への助言等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習は休まずに出席することが最も大切です。 ・実習中には対象とともに外出やスポーツなどの活動に参加する場合があります。 ・実習中は、これまでに学んだ知識をもとに実習で対象者の置かれている環境や思いを理解し、看護過程を展開して学びを深め適切な支援について、主体的に学んで下さい。 ・事前に、リカバリーやストレングスの視点について学習を深め、実習の関わりを通して精神疾患の方への支援を考えていきましょう。教員や指導者も、皆さんと一緒に学びを深めていけることを楽しみにしています。 							